

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(令和元年9月30日)

事業コード	R元-建-継-12		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	砂防		班 名	砂防班 (tel)018-860-2517
路線名等	沼山沢川		担当課長名	河川砂防課長 佐々木 寿一
箇所名	横手市大沢字沼山		担当者名	流域防災監(兼)班長 京谷 仁美
プランとの 関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化
	施策コード	01	施 策 名	災害に備えた強靱な県土づくり
	指標コード	03	施策目標(指標)名	県民の生命と財産を守る安全な地域づくり

1. 事業の概要

事業期間	H5~R8(34年)	総事業費	19.4億円	国庫補助率	50.00																																																																	
事業規模	砂防えん堤N=4基、溪流保全工L=1,894m、床固工N=3基																																																																					
事業の立案に至る背景	当地区は、複数の土石流危険溪流が集中した地域にあり、保全対象として人家やJR北上線、市道、中高一貫校等の公共施設を抱えている。平成13年8月及び平成22年7月の豪雨では、流出した土砂によって唯一の避難路である市道が一時通行止めとなり、沼山地区の孤立が生じた。また、各沢では溪岸浸食が著しく、渓床には不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土砂災害が発生する恐れがある。土砂流出による地区の孤立を防ぐとともに、下流保全対象を土砂災害から守るため、砂防設備を整備するものである。																																																																					
事業目的	砂防設備の整備により、流出土砂による被害を未然に防止し、土砂災害から地域住民の生命・財産を保全し、安全・安全な地域の創出を図る。 【保全対象】 人家37戸、耕地10.1ha、橋梁6基、JR線156m、市道5555m、中高一貫校、公民館																																																																					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計 画 時</th> <th>評 価 時</th> <th>増 減</th> <th>理 由 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>1,940,800</td> <td>1,940,800</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>経費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>1,252,900</td> <td>1,252,900</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>301,700</td> <td>301,700</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>386,200</td> <td>386,200</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 国庫補助</td> <td>970,400</td> <td>970,400</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 県債</td> <td>873,400</td> <td>873,400</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 一般財源</td> <td>970,000</td> <td>970,000</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業内容</td> <td>砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償</td> <td>砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	事業費	1,940,800	1,940,800	0		経費					工事費	1,252,900	1,252,900	0		用補費	301,700	301,700	0		その他	386,200	386,200	0		内訳					国庫補助	970,400	970,400	0		県債	873,400	873,400	0		その他	0	0	0		財源内訳					一般財源	970,000	970,000	0		事業内容	砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償	砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償		
	計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等																																																																		
事業費	1,940,800	1,940,800	0																																																																			
経費																																																																						
工事費	1,252,900	1,252,900	0																																																																			
用補費	301,700	301,700	0																																																																			
その他	386,200	386,200	0																																																																			
内訳																																																																						
国庫補助	970,400	970,400	0																																																																			
県債	873,400	873,400	0																																																																			
その他	0	0	0																																																																			
財源内訳																																																																						
一般財源	970,000	970,000	0																																																																			
事業内容	砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償	砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償																																																																				
事業の進捗状況	全体計画 19.4億円 平成30年度末投資額 14.2億円 進捗率 73.2% 砂防えん堤N=2基、溪流保全工L=1,109mが完成しており、残りは砂防えん堤工N=2基、溪流保全工L=785mである。																																																																					
事業推進上の課題	砂防えん堤工4基のうち2基の用地買収範囲について、用地取得が難航している。																																																																					
関連する計画等	「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」において、6つの重点戦略とあわせて推進する基本的な政策として「県土の保全と防災力強化」が位置づけられている。																																																																					
情勢の変化及び長期継続の理由	砂防えん堤工のうち2基の用地買収範囲について、用地取得が難航している。																																																																					
事業効果把握の手法及び効果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指 標 名</th> <th colspan="2">土石流危険溪流に対する概成率(%)</th> <th rowspan="2">低減指標の有無</th> <th rowspan="2">○ 有 ● 無</th> </tr> <tr> <th>指 標 式</th> <th colspan="2">対策済み溪流数/土石流危険溪流(%)</th> </tr> <tr> <th>指 標 の 種 類</th> <th>○ 成果指標</th> <th>● 業績指標</th> <th rowspan="3">データ等の出典</th> <th rowspan="3">河川砂防課調べ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目 標 値 a</td> <td colspan="2">16.9%</td> </tr> <tr> <td>実 績 値 b</td> <td colspan="2">16.8%</td> </tr> <tr> <td>達成率 b/a</td> <td colspan="2">99.4%</td> <td>把握の時期</td> <td>平成31年4月</td> </tr> </tbody> </table>					指 標 名	土石流危険溪流に対する概成率(%)		低減指標の有無	○ 有 ● 無	指 標 式	対策済み溪流数/土石流危険溪流(%)		指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	データ等の出典	河川砂防課調べ	目 標 値 a	16.9%		実 績 値 b	16.8%		達成率 b/a	99.4%		把握の時期	平成31年4月																																									
指 標 名	土石流危険溪流に対する概成率(%)		低減指標の有無	○ 有 ● 無																																																																		
指 標 式	対策済み溪流数/土石流危険溪流(%)																																																																					
指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	データ等の出典	河川砂防課調べ																																																																		
目 標 値 a	16.9%																																																																					
実 績 値 b	16.8%																																																																					
達成率 b/a	99.4%		把握の時期	平成31年4月																																																																		

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	保全対象として、人家37戸のほか、唯一の避難路となる市道や中高一貫校、JR北上線などの公共施設がある。平成13年8月や平成22年7月の豪雨では本溪流からの土砂流出により市道が通行止めとなり、沼山地区が孤立化するなどの被害が発生している。溪床には不安定土砂や流木が堆積していることから、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性が高まっており、地元からの要望は高く、対策の必要性は高い。	20点
緊 急 性	平成13年8月や平成22年7月にも豪雨による山腹崩壊が発生するなど、事業着手後においても不安定土砂が大量に発生している。今後の豪雨等により、甚大な土砂災害をもたらす恐れがあるため、早急な整備が必要である。	27点
有 効 性	砂防設備の整備により、多数の人家や各公共施設を保全することができるため有効性が高い。	10点
効 率 性	本事業の費用対効果は3.27であり、効率性は高い。 また、残存型枠工による施工や再生骨材を使用するなど、コスト縮減に対して積極的に取り組んでいる。	20点
熟 度	平成22年7月の豪雨による土砂流出などから、地元住民から事業の早期完成を熱望する声は高い。しかしながら、えん堤2基の設置計画地点用地買収範囲について用地取得が難航している。	18点
判 定	ランク (<input checked="" type="radio"/> I <input type="radio"/> II <input type="radio"/> III) 土砂災害から人命・財産を保全するには砂防事業が最適であると判断できるため、早期の事業実施が必要である。	95点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト縮減に努めながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防事業

事業コード (R元一建一継-12)
箇所名 (横手市大沢字沼山)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	災害発生時の影響(被害想定)	人家戸数	20戸以上	10	10	37戸
			5戸～19戸	7		
			1戸～4戸	3		
			0戸	0		
		公共・公益施設	以下に挙げる公共・公益施設がある 要配慮者利用施設 重要交通(緊急輸送道路、避難路、鉄道) 防災拠点(警察、消防、役場等) ライフライン施設(電力、ガス、水道等) 利用者多数(学校、駅舎等)	10	10	市道(避難路)5,555m 鉄道156m 学校2校
		公共・公益施設がある	5			
		なし	0			
	計			20	20	
緊急性	災害実績	過去の災害発生履歴	過去に災害の発生した記録がある	5	5	H13.8、H22.7
			過去に災害の発生した痕跡や情報がある	3		
			なし	0		
	災害発生の危険度	想定される流出土砂量	1000m ³ 以上	7	7	67,400m ³
			1000m ³ 未満	3		
		想定される流出流量	20m ³ 以上	6	3	18m ³
			20m ³ 未満	3		
		荒廃面積	流域面積の10%以上	6	6	16.50%
			流域面積の10%未満	3		
	河床堆積、溪岸侵食状況	破砕帯、火山噴出物地帯、花崗岩地帯、第三紀層地帯 その他	6 3	6	第三紀層地帯	
	計			30	27	
有効性	上位計画への貢献	第3期ふるさと秋田元気創造プラン	プランに関連する事業である	5	5	
			プランとは別の個別計画に関連する事業である	3		
			プラン、個別計画に関連しない事業である	0		
	ソフト対策との関連性	公表周知している情報の内容	土砂災害防止法に係る基礎調査 土砂災害危険箇所マップ等 なし	5 3 0	5	土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定(H28.5.10)
		計				
効率性	費用対効果	B/C	1.0以上	10	10	3.27
			1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減	コスト縮減の具体的計画	あり	5	5	残存型枠施工 再生骨材使用
			なし	0		
	当初計画との比較	当初計画事業費からの増減	減少または10%未満の増加	5	5	増減なし
			10%以上～30%未満の増加	3		
		30%以上の増加	0			
	計			20	20	
熟度	事業着手の熟度	地元のニーズ	要望あり	5	5	H29.3月地元説明会にて事業の進捗を図るよう要望あり
			なし	0		
		関係自治体等との合意形成	合意形成が済んでいる	5		
		合意形成がなされる見込みである	3			
		合意形成がなされていない	0			
	事業の進捗状況	進捗率(事業費)	8割以上完了	10	8	(H30末)14.2億円 /(計画)19.4億円 =73.2%
			5割以上完了	8		
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
	計			20	18	
合計				100	95	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上		
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		